【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792200016		
法人名	(株)エコ		
事業所名	グループホーム なでしこ ユニット 1		
所在地	岩瀬郡鏡石町高久田136-1		
自己評価作成日	令和4年9月29日	評価結果市町村受理日	令和5年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和5年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

9月下旬より同一法人で運営しているグループホームありあが隣接地に移転となりました。今後は協力、連携し地域の方々に知って頂くよう、地域で行っているサロン等に参加し、利用様が心豊かに過ごして頂けるような事業所を目指します。新型コロナウイルス感染症が収束した際には、前の様にボランティア団体の方たちに来ていただけるように、今から声掛けをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 定期的に理念の見直しを図り、事務室に理念を掲示し毎朝申し送り時に唱和して職員への浸透を図っている。さらに、毎年スタッフ会議で理念に基づく「今年目標」を定め理念の実践に繋げている。
 2. 利用者の意欲を大切に、利用者が望む生活が果たせるよう支援している。要介護度の重い利用者の意欲や思いをもとに食事づくりへの参加などを支援した結果、要介護度の軽減が図られ、さらに本人の希望に従い家族と協議しながら一人暮らしへの移行を支援した事例もある。
 3. 利用者の支援に当たり、笑顔を常に意識し、個々の利用者に合わせて「ゆっくりゆったり」を基本にしている。職員間の意思疎通が図られ風通しのよい環境のもとで利用者が安心できる雰囲気を作られ、意思疎通が困難だった利用者が会話ができるまでに改善されるなどの効果が見られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の見やすい所に掲示し毎朝の申し送り時に唱和している。	現在の理念は、職員全員で話し合っ見直しを行い令和元年に改定したものである。事務室に理念を掲示し、毎朝、申し送り時に唱和して職員への浸透を図っている。また、毎年スタッフ会議で理念に基づく「今年目標」を定め、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が野菜を持ってきてくださる。天気の良い日は散歩して、挨拶をしている。	町内会に加入し、回覧板の受け渡しをしている。以前はハーモニカなどのボランティアの訪問を受けていたが、コロナ禍以降、自粛している。コロナ禍においても毎年、近所の住民から野菜やリンゴの差し入れがあるなど地域との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方が来て下さった時などに認知症への理解を深めていたが、今年はコロナウイルス感染症の為ホームへは自粛して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議の中で出た意見は、スタッフ全員に周知し、サービスの向上に活かしていたがコロナウイルス感染症の為、資料のみお送りしその中に意見や要望等の提案書を入れて返送して頂き、回答している。	役場担当者・区長・民生委員・家族代表2名が委員になっている。コロナ禍以降、書面開催にしているが、遠方の委員には郵送で、他の委員には訪問のうえ直接資料等を手渡ししている。併せて意見要望等の提案書を同封して意見をいただき、出された意見は運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルスもあり、入退去報告以外では中々顔を出す機会も減ってきている。メールや電話での情報交換は、その都度必要時に行っている。	役場担当者が運営推進会議の委員になっており、事業所の実績や状況について理解してもらっている。空床が出た時には役場に出向き報告や相談をしている。他の町村からの入居希望者の受入れについて役場に相談し手続き等の指導を受け越境入居が可能となるなど協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修は定期的実施している。また、拘束せず、安心して生活できる方法を常に、職員間で話し合い、共有している。	身体拘束適正化のための指針を作成し、指針に基づき委員会開催と職員研修を実施している。また、職員の自己チェックの実施やスタッフ会議での身体拘束に関する話し合いを行っている。スピーチロック等は職員間で注意し合うことで防止に努めている。	定期的な身体拘束適正化委員会の開催や研修の実施が認められるものの記録の不備や散逸が見られるため、記録の整備を行い委員会や研修の記録を一つの冊子にまとめるなど整理を行うことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で、言葉や動作には気を付けているが、特に身近にあるスピーチロック等に対しては職員間で気づいた時には声を掛け合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修に参加したスタッフが会議等でその内容を報告し、活用できる様努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者やケアマネが十分に説明し理解を頂いている。その中で質問等にも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染症の為面会も時間が限られている。出来る限り、毎月の家族様宛のお便り等で、対応している。又 電話等での対応もして反映している。	利用者の意見は、日頃の会話の中から把握するようにしている。家族の意見は、面会の他ケアプランの見直しや近況報告等を行う際に電話で聞くようにしている。出された意見は運営に反映するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で全員に発言してもらい、何でも相談できるような雰囲気を作っている。	スタッフ会議で一人一人意見を聞く機会を設け、職員の意見を把握している。また、年2回の定期面談を行い、悩みや意見を聞いている。さらに、本人の申し出や職員の様子を見て個別面談を行い、その都度、職員の意見等を聞いている。出された意見はスタッフ会議で話し合い運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個々に面談しそれを運営法人に伝え働きやすい環境を整えてくれている。研修にも前向きで参加しやすいような環境を作ってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	普段から話し合いの場があり、意見や提案を存分に発言出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症の為、外部からの講師は無理だが社内での研修を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。今後は隣にGHありあさんが来るので、協力しながらサービスの質を高める取り組みが出来る。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時とか、本人 ご家族様より意見や希望を聞き、安心した生活を送って頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を聞き、小さな事でも報告し、不安なく安心した生活を送って頂けるよう努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時に、ご家族からの希望などに応じられるよう努力し、他のサービス利用も含め対応出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様一人ひとりの生活歴や趣味、残存機能を把握し、一緒に行動することで、生きがいを感じて頂けるよう働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染症の為、面会は出来ないが、ご家族に電話対応や、毎月のお便り等で近況を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症の為、近所の方やお知り合いの方には、自粛して頂いている。	入居前の実態調査時に、本人や家族から生活歴を聞くなかで馴染みの人や場所の把握を行っている。また、生活のなかで本人の話に耳を傾け、昔の馴染みの人や場所を把握し職員間で共有している。コロナ禍でも知人との窓越し面会を実施し、利用者宛ての手紙には職員が代筆して返信している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の声掛けを通して、利用者様同士関わりが持てる様働きかけている。又利用者様同士の関係性等職員間で情報を共有している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽に来所して頂けるような環境作りや声掛けをしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話が難しい利用者様にも、できるだけ多く声掛けし、一人ひとりの意向に沿ったケアを行うように心掛けている。	意思疎通が困難な利用者が入居後のケアのなかで状態が軽減し会話可能となり、現在では利用者全員が意思表示が可能となっている。利用者の思いや意向は、日頃の会話を通して把握に努めている。特に入浴の介助の折に、昔話や本人の本音を聞くことで思いや意向の把握をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの家具や日々の会話から何を求めているかを聞き取り今までの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子や状態などを、申し送りや情報共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議で利用者様の担当者からモニタリングの報告をして頂き、ケアマネージャーが中心となって話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状にあった介護計画を作成している。	本人や家族の希望を踏まえ入居時の実態調査に基づきアセスメントを行い1か月の暫定プランを作成している。入居後の利用者の生活状況等のアセスメントを行い、職員間で話し合っ基本短期目標を3か月とするケアプランを作成している。モニタリングは居室担当が作成した実施内容をケース会議で検討して行き、ケアプランの見直しに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の現状を把握を十分に行い、日々の変化を見逃さず記録し情報を共有しながら介護計画書の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況を把握しスタッフで対応出来ることは(通院等)柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	管理者を中心に地域資源の把握に努め、一人ひとりに合った資源が活用できる様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、かかりつけ医が訪問診療に来た際の結果を、お便りで結果をご家族様に伝えている。また、専門医等も主治医の紹介状で受診し、適切な支援が出来る様支援している。	入居時にかかりつけ医の通院が協力医の往診かを選択してもらっている。ほとんどの利用者が往診で結果は毎月、「病院診断・服薬記録」の写しを家族へ送付して知らせている。家族対応で専門医等を受診する場合、主治医への情報伝達と結果報告は、家族を通して口頭で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週医療連携の看護師が訪問され健康状態を診ている。その記録をご家族に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には ホームでの状況を伝え、入院中も病院と連絡を取り状態を把握している。又 退院後も状況にあった対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事前確認している。又 入所後も定期的に意向に変化がないか確認している。	入居時に重度化(看取り)指針を説明し、同意を得ている。看取りの意向確認を行い症状に応じた説明の機会を設け、利用者及び家族の意向に沿った支援に努めている。看取りケア実施後は職員で振り返りを行い、日々のケアに活かしている。コロナ禍でも終末期は居室での面会が可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナウイルス感染症の為、まんえい防止期間等は本社から、二カ月に一度来て頂き、救急訓練を実施している。またその後、実施記録書の作成をし、職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防火管理者が主体となり、消防訓練を実施している。年1回は消防署立会のもと訓練を行なっている。	年に2回の総合訓練(1回は消防署立ち会い)と情報伝達訓練や設備等機器操作訓練等を毎月、行っている。備蓄は食料品(缶詰、飲料水等)3日分があり、ポータブル電源や衛生用品、防寒具等も準備されている。前回の外部評価後、地域の協力体制は近隣の方に依頼し、連絡網にも入っている。	目標達成計画の項目となっており、近隣の方に了承頂き事業所の連絡網に入ってもらっているが、実際の訓練までには至っていない。職員の情報伝達訓練の際に、地域の人にもスムーズに伝わることを確認しておくとともに良いと思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が声掛けや言葉使いに気をつけ十分配慮している。	入室時はノックをし、利用者への声かけや言葉遣いに気をつけ、トイレ誘導の声掛けは耳元で行う等、基本を忠実に支援している。記録類は事務所内の施錠できる書庫等で適切に管理しており、「個人情報とプライバシー」をテーマとした職員研修も実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や、食べ物 衣類等、ご自分の好みを選べるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や居室で過ごされる時間等個人個人の希望で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や毎日の更衣時には、ご自分の好みの物を選べるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事はチルド食の為10日はカレーの日として旬の食材を使いながら出来る限り対応している。又 行事食では生寿司や麺類を提供している。	配食会社のチルド食を利用し、ご飯とみそ汁を事業所で手作りしている。また、誕生日や行事の際には利用者の希望に応じて行事食や生寿司等好みの食事を提供している。さらに、毎月10日か20日にチルド食を止め、カレーの日として提供し喜んでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を観察、記録して、栄養状態を維持できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは声掛け、誘導し見守りながら行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けをし、誘導して排泄のパターンを把握している。	定時誘導と排泄チェック表から把握した利用者の排泄パターンや利用者の表情や仕草等から排泄サインを確認しながら、羞恥心と自尊心を損なわないように声掛け・誘導を行い、トイレで排泄が出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを確認し、水分摂取を勧めたり、運動等を実施し個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の際は、利用者様の意向を確認し、声掛け実施している。また入浴剤も利用者様に選んでいただき、個々の好みに合わせ対応している。	一人一人がゆったりと入浴できる環境づくりに努めており、入浴剤等を使用したり、CDで音楽を流し、職員と歌を唄い、会話をしながらの入浴が出来る。気分がのらない利用者へは好きな飲物を飲むことを口実に誘ったり、一番風呂で誘う等、工夫して対応している。ゆず湯やバラの花等、変わり湯も提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温を利用者様の好みに調整し安眠出来るよう支援している。天気の良い日には布団を干したり乾燥機を使用し気持ちよく休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に薬の説明書をファイルにまとめ何時でも確認できるようにしている。薬の変更時には記録、申し送りにて職員間で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日洗濯物を広げたり、畳んだりして頂いている。又日めくりカレンダーや雑巾作成など個々に合わせた役割を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナウイルス感染症のため、外出は控えています。駐車場に出て、ご近所の四季折々の花を見たり、自然を感じられるよう支援している。	コロナ禍で活動が制限されるなか、回覧板を届けに出かけたり、近隣の散歩や天候の良い日には事業所玄関前でお茶を楽しむ等、気分転換が図れる機会を大切にしている。今年は、紅葉狩りをバス旅行で出かけた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染症の為、今は外出を自粛している代わりにスタッフが、欲しいものを聞き買い物代行をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話が来た時には本人に取り次ぎし御自分で電話連絡したいと言われる時にはいつでも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が快適に過ごして頂ける様に、温度調節を行ったり時には窓を開けたりして工夫している。季節ごとにホールの装飾を替えたりして季節感を味わって頂いている。	共用空間としてのリビング、廊下には、季節が感じられる飾り物や写真・観葉植物等が飾られ、落ち着いた雰囲気をかもし出している。また、コロナで利用者の座席配置を対面にならないように工夫している。毎日の清掃や温度・湿度・換気等の管理は職員が行い、刺激的な音・光・色等は、感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルごとに気の合った方たちに座って頂いたり、又 ソファに座って頂いたりして工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	自由に過ごせるよう配慮している。仲の良い利用者様同士で居室で話されるときもあり、自由に過ごされている。	各居室にはトイレが付いており、ベッド・エアコン・クローゼット・洗面台が設置されている。入居時に、自宅で使用していた馴染みの品物を持ち込んでもらうよう説明している。利用者は、冷蔵庫・テレビ・テーブル等の他に、CDラジカセ・週刊誌等を持ち込み、居室で今までの馴染んだ生活を楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来る事、やりたいことを日々行っている。		